



皆野中だより

12月号



小中学校音楽会秩父地区大会

令和7年12月1日発行 第9号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるこころ

【学校教育目標】人間力で自立する生徒の育成

【目指す学校像】心理的安全性で Well-being を実現する学校

生徒数 1年61名 2年76名 3年74名 合計211名

忘己利他

校長 板倉邦弘

10月31日(金)、第56回皆野中学校文化祭が本校体育館を会場に開催されました。平日にもかかわらず、大勢の保護者の皆様にご来校いただき、合唱コンクールや総合芸術部の発表、英語弁論、Nコン有志合唱等を披露することができました。また午後には皆中恒例の「俳句教室」を実施し、文化的な一日を過ごすことができました。合唱についてはコンクールなので順位がつかいましたが、いずれの学年・学級も甲乙つけがたいパフォーマンスぶりでした。最優秀となった学級から本校代表として3年1組が11月13日の地区音楽会でも実力を発揮して素晴らしい歌声を秩父宮記念市民会館に響かせました。

11月中には、学校公開とすべての学年で生徒・保護者・担任の三者面談を実施しました。お仕事等の都合をつけてご来校いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。今後も保護者の皆様との連携を密にし、お子さんの教育活動にあたっていきたいと思います。

さて、話は変わりますが、私は東京六大学野球の応援合戦が大好きです。野球よりも応援合戦を見るために神宮球場に足を運んでいると言っても過言ではありません。はじめは甲子園で活躍した選手が大学生になってどんな選手になっているのかを見るのが楽しみで通っていたのですが、今や各大学の応援の方が楽しみになりました。とにかく一生懸命で、礼儀正しく、所作の一つ一つが本当に美しいのです。対戦相手の大学にも最上級の敬意を払い、応援を仕切る学生服やスーツを着た学生、吹奏楽を担当する学生、チアリーダーの学生、そして保護者をはじめ大学の関係者、それぞれが連携しながら全力で展開される応援は見事しか言いようがありません。見ているだけで心が熱くなります。

ところで、自分の大学とはいえ、なぜ他人のためにそこまで応援に燃えられるのでしょうか。比叡山延暦寺を建て、日本に天台宗を開いた伝教大師最澄の言葉に「忘己利他（もうこりた）」というものがあります。「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり（自分のことを忘れて、他者の幸せのために尽力することが慈悲の究極の姿である）」という意味です。自分を犠牲にするという意味ではなく、他者を幸せにすることが結果的に自分自身の幸せにもつながるという考え方です。まさに応援は「忘己利他」を体現したものではないでしょうか。

皆野町そして皆野中学校は「ウェル・ビーイングな町・学校」を目指しています。11月19日(水)の皆野教育シンポジウムでは、SDGs11「住み続けられるまちづくりを」をテーマに3年生が早大生、地域おこし協力隊や「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員」の皆さん等とディスカッションを行いました。町の未来のために考え、行動することは「忘己利他」の精神でウェル・ビーイングを目指す取組になるものと感じた秋の一日でした。